



ときの新しいはく物館を考え、活用するための

第2号

ときはく

ワーク
ショップ
ニュース



現在土岐市では、土岐の新しい博物館において、市民主体で活用する際の仲間づくりを進めていくため「新博物館市民ワークショップ」を行っています。昨年末に実施された第1回のワークショップでは、新博物館の提案内容の説明の他「つながり・にぎわいエリア」の活用方法について、活発な意見交換が行われました。今回は、新しい博物館の建設予定地である美濃陶磁歴史資料館を中心に、周辺の古墳や窯跡等を巡りながら現地や周辺を体感したあと、グループに分かれて活発な意見交換を行いました。第2回ワークショップ当日の様子を「ときはくワークショップニュース」としてまとめましたので是非ご覧ください。

◆当日のワークショップの様子

◆「新博物館が建つのは、どんなところ?」「ここでなにができるだろう?」



- ◆日時：2024年2月12日(月祝) 13:00~16:00
- ◆場所：土岐市美濃陶磁歴史館 1階ホワイエスペース他
- ◆参加者：19名

◆ワークショップの主旨、当日のプログラム、全体スケジュール

◆新しい博物館の建設に際して「つながりエリア・にぎわいエリア」を中心に、市民の皆さんに興味を持ってもらうとともに、エリアでの過ごし方や活用の仕方について、ハードやソフトの両面から考えていきます。また、完成後に市民主体で活用する際の運営母体としての礎をつくっていきたいと考えています。

◆第2回ワークショップ 当日のプログラム

- 13:00 現地探索に向けたガイダンス
- 13:05 美濃陶磁歴史館及び周辺めぐり
(1:バックヤード 2:展示室 3:乙塚古墳、段尻巻古墳 4:元屋敷窯跡)(学芸員からの説明あり)
- 14:45 休憩
- 14:50 ワークショップの目的と前回のふりかえり
- 14:55 建築計画の概要の説明
- 15:00 グループワーク
- 15:40 グループ発表
- 15:55 次回ご案内等(アンケートご記入後に解散)



◆ワークショップ開催内容、今後の予定など

第1回 【R5/12/10】

「つながり・にぎわいエリア」の活用方法を考えよう!

済

第2回 【R6/2/12】

現地及び周辺を体感しよう!まちとつながってどう使う?

済

第3回 【R6/4月頃(予定)】

博物館計画の概要確認+これからの活動ロードマップをつくろう!

第4回~【R6/6月頃から3回程度実施する予定】

今後施設を運営していくにあたり、ボランティア等による組織づくりや活用等などについて先進事例から学んだり、“(仮)ときはくサポーター”設立にむけての提案を行ったりします。

※話し合うテーマや内容については変更する可能性があります

美濃陶磁歴史館、周辺めぐりの様子



古墳の
説明ガイド



学芸員からの
詳しいガイドで
理解も深まる



元屋敷
窯跡の様子



天気もよく
周遊日和
(びより)



重要な文化
財がホール
にびっしり



各グループでの話し合いの様子



設計会社より
建築計画の概
要の説明
もありました



みなさん真剣
に取り組んで
います



沢山の意見を出していただきました



大きな模造紙に
沢山の書き込み
がスゴイ!



笑顔でとても楽しそう

ひとこと アンケート

◆周遊に関すること(古墳、窯跡、展示、バックヤード) 土岐市の新たな魅力を知ることができ、有意義な時間になった/陶器の歴史、古墳、化石の3面をもっと広げられたらよい/バックヤードにとっても感動した/収蔵品の多さにびっくりした/市内の人へのPRの仕方が大切/初めて古墳と窯跡を訪れたが、こんな素敵な所があることを知れてよかった/陶器づくりが身近な環境であるからこそ、地元の小学生との連携はもちろん、県外の方、外国人などへ広げていけたらよい/周辺だけでなく、市内の歴史をつなぐ場所となるといい/博物館を拠点に色々な輪が広がるといい/新博物館へ大きな期待をしている/「ときはく」がんばれ!! ◆学芸員に関して) 学芸員さんの話を聞きながら、窯跡や古墳、展示室、バックヤードを見ることにより、メリットやデメリットを考えることができた。学芸員の役割は重要/学芸員の方の熱い説明が良かった。もっと話を聞きたい。質問してみたい ◆ワークショップ全般について) とても楽しかった/市内外の方を含め様々な方の意見を聞くことができた/多様な意見があり自分自身も勉強になった/今後も時間が合えば参加したいと強く思いました/今まで気になっていたこと、どうして多くの人に来てもらえないか。「素晴らしいやきものなのに?」を話せることができて、来てよかったと思います/グループの方の対応に感謝した/相反する意見ばかりで大変だなと思います/もう少し早い段階でのワークショップができるとよい。などなど沢山の意見ありがとうございました。

◆第2回ワークショップで出た意見 ～ 新しい博物館での具体的な活用案

グループ

新博物館での具体的な活用提案

重要提案ベスト3

A グループ

【敷居を低く、イベント、テーマパーク】

- 敷居を下げる～気軽に来れる場所。ふらっと来てポーっとできる場所。／名前が固い。わかりやすい名前／ウォーキングイベントを定期的な実施／美術品をリクエストできる／焼物以外の展示／焼き物のテーマパーク～発掘や体験ができる。（子どもが楽しめる TDL や USJ）

【周遊コース、ガイド案内、周辺との連携】

- QR コードでの案内。自動運転の車での移動。隠居山周遊コースの提案（3つほど）。化石や古墳巡りをもっと PR。今はわかりにくい。
- 市内の人をどう呼び込むための。「にぎわい」や「つながり」づくり。市民も遠方（今まで来たことがない人に来てもらう）からも。
- イオンやアウトレットとの結びつきや連携を考える。土岐のイオンのテラスみたいなものもいい。

【価値の再認識】

- 市民が美術品としての価値をもっと知ることが重要。美術の感性を磨く博物館にしたい。価値がすごい（重文指定が多い）のに市民がその事を知らない。多治見や県立の博物館との違いをもっとアピールする。火や炎のイメージを表現！古墳や遺跡もあることが特徴や魅力。



- ①ワクワク楽しいときはく
（敷居を低く・イベント・テーマパーク）
- ②わかりやすいときはく
（周遊コース・ガイド案内）
- ③スゴイ価値を感じるときはく
（国の文化財・美術品としての価値を知る）



B グループ

【開かれた博物館／展示／シンボル】

- ミュージアムショップには、陶片のレプリカ、ブローチ等、独自のキャラクターなど。カフェやテラス。高低差を楽しむ空間づくり。全体を開かれた公園として作るとなじみやすい。2 階に展望スペース。駅からも見える。古墳へのダイレクトアプローチ。

【つなげるアイデア】

- ボランティアガイドさんの募集。古墳や窯跡など博物館以外も含めて全体がつながる一筆書きのようなルートの構築。サインの充実。
- 博物館、古墳、窯跡にちなんだキャラクターや解説、クイズ、スタンプラリーで道中を楽しく演出。道に名前をつけるとか。四季折々の花で人を呼ぶ。夏場の暑い時期や雨の日の見学場所を考える。

【わかりやすい解説】

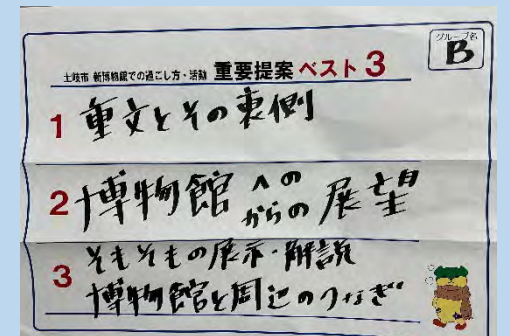
- 説明看板などが専門的で難しい。もっと簡単に理解できるような解説の工夫。（絵があるとイメージが沸く。海外の人も OK）
- 作陶風景の VR 体験。窯跡や展示室（復元模型）だけでなく、建物自体の物をながめられる。地図、絵、図などのバーチャル化。

【映える古墳】

- 映えるスポット、写真を撮る場所をつくる。芝生エリアを活用する（半日過ごせるくらいの内容）
- ピクニック、ゲーム、おもちゃ貸し出し、モルック、犬とちびっこ、子どもとおじいちゃんとおばあちゃん、夜のライトアップとかナイトミュージアム、ナイトツアーなどなど



- ①重文とその裏側
- ②博物館への（からの）展望
- ③そもそもの展示・解説、博物館と周辺のつながり



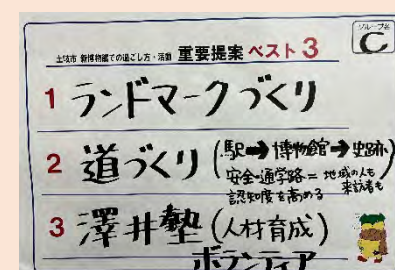
C グループ

【導入工夫・PR／つながり】

- 新博物館の建設に無関心な市民への PR。土岐市駅からのルート上に建物の外観を印象づける⇒ランドマーク。
- 収蔵エリアも見れるようにする。

【道づくり／学び／五感力】

- 散歩コースの設定。例）2 km、5 km、10 km。駅からのアプローチ「ときはくロード」など名称を募集。小学生向けのイベント。
- ユニバーサルデザイン。五感で陶片を楽しめるとよい。香り、灯、お茶・余暇活動に結び付く場所 などなど



- ①ランドマークづくり
- ②道づくり（駅→博物館→史跡）
安全・通学路＝地域の人でも来訪者も認知度を高める
- ③澤井塾（人材育成）ボランティア

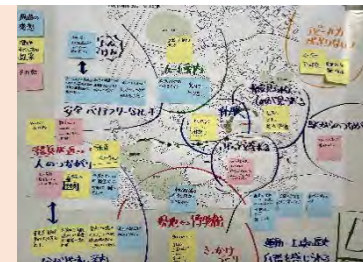
D グループ

【ルート案内】

- 窯跡、公園を活用したルート案内。学芸員が市民と近い存在（学芸員ステーション）。見せる工夫。（自動音声のガイダンス、大窯で実際に焼いている場面が映像で見られる。音声付きの説明やスクリーンでの映像説明）。学芸員さんの感性が生かせる展示に期待する。

【きっかりづくり、体験】

- 博物館は難しくない場所だと印象づける工夫。気軽に疑問に答えてくれる場所。博物館に来るというよりは、〇〇があるから来る。そのついでに知ることができるとよい。体験できる場（焼ける窯）。スーパーでの PR などなど



- ①学芸員が近い、会える博物館
- ②安全・安心な探検ルートづくり（運動・エクササイズも）
- ③なんで？と思える興味を高める説明の工夫（現地⇄博物館のつながり）

まとめ

グループ毎に沢山の意見が出ましたが、共通した意見としては「気軽にふらっと入れるような敷居の低い身近な博物館」、「市民や市民以外の方々に対して文化財の価値をもっと知ってもらうよう積極的な PR を行う」、「新しい博物館単体だけでなく、周辺の歴史資産（古墳や窯跡など）と連携を図り、周遊ルートの設定などによってエリアの魅力を高めていく」、「博物館以外の要素～映えるスポット、ライトアップ、夜間利用、スタンプラリー、カフェ、四季折々の花々による公園化等で付加価値をつける」、「学びの場としての充実～身近な存在として学芸員さん達にもっと活躍してもらう工夫、新たなガイドボランティアの創設、AR、VR 体験・・・」等の意見が多く出ていました。皆さん、たくさんのご意見ありがとうございました。

